

鶴城中だより

貴
校長 上明利
田 No.15

24時間 使い切る!

選抜高校野球中四国地区代表の鳥取県立米子東高校は、ベンチ入りメンバーわずか16人。毎年百人以上が東大、京大をはじめとする国公立大学へ進学する鳥取一の進学校。米子東はなぜ選抜出場という成果を出せたのでしょうか？

全ての人に平等に与えられているものは時です。24時間をいかに過ごすかというのを米子東高校野球部紙本監督は、こう生徒に説明します。

人生の節目

一年にも季節があり、その節目があるように、人の一生にもいくつかの節目があります。

入学式や卒業式、成人式や結婚式、還暦や喜寿米寿などなど。
奈良く平安時代、男子は数え年15歳ぐらいになると、大人になった証として、着物や髪型を大人の物に変え、冠をかぶる元服という儀式をしていた

「24時間11440分を使い切る人になろう」例えば、毎日1440円を朝に受け取れて『使い切れなかったらゼロになります』と言われたら、すごく大事に使うと思うし10円玉を落とす

ようです。室町以降は、武士の世の中となり、前髪を剃る形式へと簡略化されます。この元服の儀式を現代風にしたのが立志式です。もちろん、着物や髪型を変えることはしませんし、男子だけでなく、女子も参加します。

現在では、法律(刑法)においても、14歳を境に大きく扱いが変わってきます。大人としての扱いになるのです。そこで、大人へ仲間入りし、努力を惜しむことなく

したら捨てると思います。でも人って10分をすぐに無駄にするんです。10円をかき集めたらすぐにジュースくらい買えるわけで、10分をかき集めたら結構なことができるはずなんです。でも人はなかなかそれができない。じゃあ、どうしたらできるようになるのか。大事なものは『習慣形成』なんです。要は習慣になっていないことをしようとするから苦痛を伴う。勉強や野球の練習を『やるのが普通』という状況にもっていきたいんです。さらに、話が続きます。

とにかく食事、休養は練習より大事だよと言いつつ集めておきますね。ウチのチームにある唯一の決まりは、『睡眠時間を七時間以上とること』というだけです。これまでの話から、練習した成果を発揮するために、時間を有効に使うことがいかに大切か、また、食生活や休養がいかに大切かがわかります。鶴城中で生活できる時間は残りわずかです。学校でできること家でできることをしっかり考え、24時間11440分を使い切る人になりましょう。



大きく羽ばたく決意を持ってもらうために、一月十六日、山鹿市のすべての二年生は、八千代座で夢プロジェクト講演会に参加しました。今年度の講師は、フラダンサーの石原聡江さんでした。自らの夢を実現するために意志をしっかりと持ち果敢に挑戦されてきたお話でした。最後に本校の森田生徒会長が代表で決意表明を堂々と発表してくれました。さて、立志式で良く取り上げられる幕末の志士に橋本左内という人がいます。15歳で大きく5つの決意をし、「啓発録」という本にまとめました。(学校便り15号で紹介)

その5つの決意とは、
① 稚心を去る
② 気を振るう
③ 志を立てる
④ 学に勉める
⑤ 交友を選ぶ ことです。
このことにより、左内は西郷隆盛をはじめ多くの人に認められる存在になったようです。
二年生はいよいよ志を立てるときとなりました。委員会活動でも、閉校記念式の発表でもリーダーシップを発揮し一人一人が大きく成長すべく更なる頑張りを目指します。



閉校記念招待給食会

一月二十八日(月)日頃から本校の教育にご理解とご支援をいただいている十四名の皆様をご招待し閉校記念給食会を実施しました。



1年給食会の様子



2年給食会の様子



3年給食会の様子



1年音楽の授業参観
